

神奈川県立総合教育センター 教育相談のご案内

来所相談

学校教育や家庭教育に関するさまざまな事柄や悩み、不登校等について、幅広く相談に応じます。児童・生徒と保護者が総合教育センターに来所して相談することができます。

保護者に来所相談を勧める際、事前に学校から電話でご相談ください。

【対象】就学前から高校生年齢の本人・保護者
【相談日時】月～金 9:30～16:30
(祝休日、年末年始を除く)

教員相談

児童・生徒への支援や保護者等への対応、関係機関との連携についての情報提供等、教員・スクールカウンセラー等からの相談に応じ、学校における教育相談活動を支援します。

【対象】教職員
【相談日時】月～金 9:30～16:30
(祝休日、年末年始を除く)
【方法】電話相談もしくは来所相談

精神科医によるこころの相談

児童・生徒や保護者について医療的なアドバイスが得られます。年12回程度を予定しています。いずれも予約が必要です、事前にお電話でお申し込みください。

【対象】教員・スクールカウンセラー・
スクールソーシャルワーカー等
【相談日時】webページをご覧ください。
【相談時間】電話相談:30分
来所相談:1時間

学校訪問相談

センターの職員が学校等を訪問し、児童・生徒の行動観察をしてケース会議に参加します。子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の内容や校内支援体制等について相談に応じます。事前にお電話でお申し込みください。

【対象】学校等
(関係機関を含む)

不登校の高校生への 支援の充実に関する研究

(令和元年度～2年度)

<概要>



令和3年4月より、神奈川県立総合教育センターの教育相談は、善行新庁舎7階で行います。



お問合せ・お申込みは
0466-81-8521
教育相談課まで



詳しくは、総合教育センターのwebページまで

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/gakkoshien/houmonsoudan.html>



令和3年3月
神奈川県立総合教育センター

研究の目的

不登校の高校生(高校生相当)の支援を通して、個に応じた教育支援機能をもった教育相談の新たな形を考える

研究の背景

◇国の動向「不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)」より

- ・登校のみを目標にするのではなく、社会的自立を目指す必要がある。
- ・不登校の時期が積極的な意味を持つことがある一方で、社会的自立へのリスクが存在することに留意する必要があることが指摘されている。

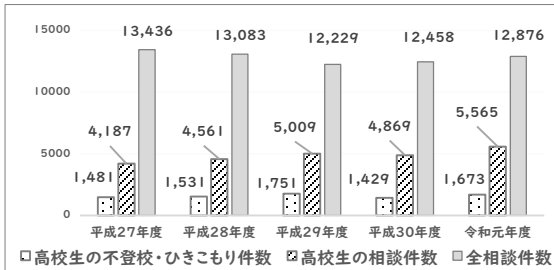
◇県の動向「令和元年度 神奈川県児童・生徒の問題行動等調査」より

- ・公立高等学校(通信制を除く)における長期欠席者のうち、約40%が不登校である。

◇総合教育センターの教育相談

- ・不登校・ひきこもりを主訴とする高校生の相談は依然として高い水準。(表1)

表1 総合教育センターにおける高校生の不登校・ひきこもりに関する相談の推移(件数)



1年次の取組

◇全国の相談機関へのアンケート調査

【実施時期】:令和元年11月~12月 【対象】:本県を除く46都道府県及び20政令指定都市

- 【回収率】:77.6%
- 【結果】
- ・不登校を主訴とする高校生の相談:98.0%
 - ・来所相談において個別の学習支援:11.8%
 - ・教育支援センターの設置:13.7%

【高校生を対象とした教育支援センター】

- ・7府県で設置

不登校の高校生を対象とした教育支援センター(適応指導教室)では、学習支援の有効性が示唆された。

◇調査研究協力員の協議・意見聴取

【調査研究協力員会の開催】:令和元年7月、11月、令和2年3月(3回)

【研究助言者】:国立特別支援教育総合研究所 笹森 洋樹 氏

【調査研究協力員】:県立高校5校の教育相談コーディネーター

【調査研究協力員会における意見】

- ・本人のニーズ、本人の意見が大切
- ・センター(支援機関)と学校の協働が不可欠

安心して過ごせるという視点が大切

2年次の取組

不登校の高校生(高校生相当)のニーズに応じる新たな形の教育相談の試行

K-roomの開室

K-room = かながわの頭文字と、高校生・教育相談を連想させる「K」

【試行期間】:令和2年8月~12月(週に1回 全16回)

【開室時間】:13:00~16:30 【利用人数】:13人 延べ37人

*利用時間、活動内容は利用者が自主的に決定する

◇支援内容 <静かで安心安全なスペースを用意し、個人が守られる環境で実施>

- ・学習支援(課題レポート、試験準備、生徒が学びを深めたい内容)
- ・進路支援(履歴書の作成練習、作文準備)
- ・コミュニケーション支援(ゲームやスポーツを通じた同年代との交流)※
- ・生活支援(ソーシャルスキル、ライフスキルトレーニング)※

※は令和3年度以降導入予定

◇利用者の様子(例)

利用者	活動の様子	担当者の支援
Aさん	日本史の好きな時代の文化史を資料等で調べ、発見したこと等を担当と共有して学びを深めた	タイミングを見計らった言葉かけ、信頼関係の構築
Bさん	物理の課題レポートのわからない箇所をスタッフとテキストで確認しながら取り組んだ	ホワイトボードを利用しながら視覚化して説明
Cさん	アルバイトをするために履歴書を作成した	質問のしやすい距離感

◇利用者の声

- ・自分を見つめることができた
- ・相談に行くことがチャレンジだった
- ・適度な距離で、自分にとってよいタイミングで声をかけてくれた
- ・話しやすい雰囲気、利用する中で知っている先生も増えて過ごしやすくなった

◇利用者の変化

- ・学校に登校できるようになった
- ・身だしなみに対する意識が高くなった
- ・勉強だけでなく、家の手伝いをするようになった
- ・K-roomでやったことを家でもやってみた。自分で「やってみよう」と思った

今後に向けて

令和3年度より、高校生版「教育支援センター」として「K-room」を事業化し、新しい総合教育センターのリソースを活用しながら調査研究を進め、利用者の社会的自立を支援していきます

- ・K-roomに関するお問合せは、0466-81-8521まで
- ・対象は高校生(高校生相当)となります
- ・当センターの来所相談を経るの利用となります

研究の詳細はこちら

